

新体操部 第74回国民体育大会茨城県大会出場までの道のり

新体操部顧問 鈴木 菜穂

「令和元年度 天皇皇后両陛下ご即位記念大会 第 74 回国民体育大会茨城県大会 いきいき茨城ゆめ国体」での沢山のご支援・ご声援をいただきまして本当に感謝申し上げます。

1 国民体育大会までの試合日程

平成 31 年 2 月 17 日 (日)	高崎シルクカップ
平成 31 年 3 月 26 日 (火) ～27 日 (水)	常陸大宮 CUP
平成 31 年 4 月 1 日 (月) ～3 日 (水)	飛行船カップ
令和元年 5 月 15 日 (水)	関東高等学校新体操選手権大会茨城県予選会
令和元年 5 月 24 日 (金) ～26 日 (日)	SASAKICUP 第 17 回全日本ユースチャンピオンシップ
令和元年 6 月 7 日 (金) ～9 日 (日)	第 68 回関東高等学校新体操選手権大会
令和元年 6 月 15 日 (土)	令和元年度県民総体兼高校総体新体操茨城県大会
令和元年 7 月 13 日 (土) ～14 日 (日)	関東ブロック大会 (オープン参加)
令和元年 9 月 7 日 (土) ～8 日 (日)	第 74 回国民体育大会茨城県大会
※本会場の日立池の川さくらアリーナにて毎月 1～3 回程度の強化合宿も実施	

2 強化の始まり

本国体の選手強化が中央高校で本格的にスタートしたのは、2018 年 1 月。茨城国体本番の日まで 600 日を切るなかで、まだ練習環境も何一つ整っていないチームに、練習拠点としてお力添えを頂けたのが本校でした。県内の選手オーディションに合格した 9 名の選手が、毎週 1～2 回、それぞれの地域から学校帰りに集まり、細々と強化がスタートしました。

新体操競技では、茨城国体の数年前に県内に日本トップレベルの有能な選手が多数おり、2016 年岩手国体では 3 位、2017 年愛媛国体では 2 位という成績を残していたことから、茨城県国体競技力向上対策本部を通じて、新体操競技の練習に欠かせないフロアマットを購入していただきました。高額で購入も難しく、県内で使用できる場所もほとんどない状況のなかで、本校の体育館で使えることになったのは、夢のような話でした。選手も指導者も全てがゼロからのスタートでしたが、与えられた最大限のチャンスと時間を使い、常に前向きにチームが戦うことができたのは、思い切り練習できる環境があったからこそです。本チームのために、練習環境づくりに尽力頂いた多くの学校関係者、県内の国体事務局の関係者に感謝致します。

3 国民体育大会で果たすミッションと大きな責任

国民体育大会茨城県大会において、茨城県選手団が成し遂げなければならないミッションが「国体総合優勝」という大きなものでした。これは、各競技団体がこれまでにないベストを尽くし最高のパフォーマンスをして、「優勝」・「入賞」を前提として戦わなければいけません。新体操競技の選手達は「表彰台」を目標として、常に自分やチームメイトに毎日言い聞かせていました。しかし、全国に出場したことのある選手がチームに数名しかおらず、この前代未聞のスーパーミッションを本当に成し遂げられるのかという気持ちと大きな責任が毎日頭を過っていました。その責任は選手団だけでなく監督・コーチ・スタッフも毎日感じていました。優勝条件は「個人・団体共に落下しない、ノーミスを出す」ことが大前提ですがその分、「美」

を追求しながら技と音楽を身体で表現しなければいけません。新体操競技選手・スタッフ団は、県の国体競技力向上対策本部強化本部の新体操担当者とミーティングやディスカッションを積極的に設け、スタッフ内でも会議を多く実施して、目標である「表彰台」に向けて毎月最低 1 回の強化合宿や強化試合、演技披露会等多くの取り組みを行いました。



※日立市池の川さくらアリーナでの強化合宿
本会場での練習は本当にためになりました。



※中央高校にて強化練習
熱い夏も乗り越え頑張りました。



※個人・団体それぞれで 100 本「ノーミス・落下なし」を練習の中で取り組みました。

4 関東大会に本校過去最多出場 ～in千葉県～

令和元年 6 月に千葉県東金市で行われました、関東高等学校新体操選手権大会に出場しました。高校新体操競技において、関東地区は全国で優勝するチームが最も多い地区です。

今年度は、関東の強豪校が集まる関東大会に本校新体操部より、個人競技として本校過去最多人数の 3 名が出場しました。3 年 鈴木奈知, 2 年 石津愛莉, 高野真衣 の 3 名が出場し、鈴木と高野は初出場、石津は 2 度目の出場となりました。国体で「表彰台」を目指すうえで重要な「落下なし・ノーミス」を出せた選手もいれば、課題の残る選手もあり、それぞれが表現したいこと・魅せたいことを出せて、国体にも繋がる大きな経験をすることができました。

来年度は、この関東の舞台に一人でも多くの選手が出場できるよう、部員同士でも切磋琢磨しながら、それぞれが日々努力を積み重ね、学校を盛り上げていけたらと思っております。

5 国体前の関東ブロック大会（オープン参加）

本国体前の関東地区予選が千葉県で行われました。茨城県は開催県なので、自動的に本国体へ進めますが、千葉県体操協会様のご厚意でオープン参加枠で出場させていただきました。本国体前最後の調整となる関東ブロック大会で茨城県チームはミッションである「表彰台」に一步でも近づくため、ある目標を立てていました。それは、試合・大会での「ノーミス・落下なし」です。今まで参加してきた試合・大会において団体演技での「ノーミス・落下なし」をまだ出せたことがありませんでした。このことは選手達はもちろんスタッフ団も不安に思っていました。

本国体で「表彰台」に乗るには難しい、無理なのではないか、あきらめるべきか、そんな日々の中迎えた関東ブロック大会1日目個人競技でした。茨城県チームトップバッターで伸びのある演技をしてくれた石津 愛莉（フープ）、エレガントに難しい技をこなした高野 真衣（ボール）、新作演技でチャレンジした西野 玲名（クラブ）、難しい種目を巧みに操った鳥丸 万梨子さん（茨城高校・リボン）。それぞれが自分の最大限の力を出して茨城県チームのために頑張ってくれました。

2日目団体競技は、最終試技で会場にいる観客全員が注目する中、演技をさせていただくことになりました。練習フロアから本番フロアに向かう選手達は、ドキドキではなくワクワクしながら本番フロアへ向かって行きましたが監督・控え選手・スタッフ団は、選手達よりドキドキしていました。演技はスタートがとても良く美しく流れるように進み、演技後半のステップから会場の観客も手拍子をするようになり、ラストの技が終わりポーズが決まると大きな拍手に包まれました。その瞬間、「表彰台」というスーパーミッションが現実になるかもしれないと茨城県チーム全員が思った瞬間でした。初めての「ノーミス・落下なし」が出せた関東ブロック大会は、選手達はもちろん監督・スタッフ団もとても嬉しい瞬間でした。



※関東ブロック大会での目標達成。嬉しそうな表情の選手団。

6 いよいよ、茨城国体本番！！

9月7日は個人競技、8日は団体競技となり、いよいよラストステージが来たワクワクともの凄い緊張感の中、茨城国体新体操競技が開催されました。競技日前に公式練習が2日間あり、最後の調整を念入りに行い、個人競技初日を迎えました。会場には茨城県大応援団で会場が埋め尽くされていました。

トップバッターの石津が「21組、茨城県、フープ、石津 愛莉さん」とコールされたとたん、大きな拍手がおき、会場が茨城県の味方だと感じた瞬間でした。トップバッターの石津 愛莉（フープ）は、小柄な身長にも関わらず演技がダイナミックでリスクの高い技をこなしていきチームトップの得点をいただきました。2番手の高野 真衣（ボール）は表現力豊かに演じ、安定感のある演技で次の選手にバトンを繋いでくれました。西野 玲名（クラブ）は高野から受け取ったバトンを胸に堂々と演技をし、いつもは見せない表情や表現が演技の中で見受けられました。ラストの選手、チームリーダーの鳥丸 万梨子（茨城高等学校・リボン）は気迫の演技を魅せてくれました。個人競技を終えて目標としていた「ノーミス・落下なし」はかないませんでしたが、個人選手達は過去最高の演技でバトンを繋いでくれました。個人成績は全体の12位となり、団体で「ノーミス・落下なし」を出せば「表彰台」に届くところまでに来ていました。

翌日の団体競技、練習フロアでは選手達や監督・スタッフ団が落ち着いた雰囲気がありました。団体本番「11組、茨城県」とコールされ前日の個人競技より大きな拍手や声援が茨城県チームを後押ししてくれました。演技序盤は落ち着いた演技で一つ一つ丁寧にこなしていき演技後半にヒヤッとする場面がありましたが、高野がスーパーセーブで何事もなかったかのようにカバーし、最後のポーズも完璧に決まり会場からは割れんばかりの拍手が選手達・監督・スタッフ団に送られました。拍手は約2分間も鳴りやみませんでした。あの瞬間は忘れられない瞬間でした。団体競技の最終試技が終わり、結果を見ると得点掲示板には「茨城県 第3位」とあり、スーパーミッションの「表彰台」が達成され現実となった瞬間、これまで積み上げてきたことは無駄ではなかったと感ずることが出来た瞬間でした。

表彰式では笑顔で賞状とメダルを受け取る選手たちの姿に茨城県チームやスタッフ団、会場の観客が大きな拍手を添えてくれました。大きな成果と感動を与えてくれた選手達はもちろん、会場にいた観客や応援団、大会を支えてくれた多くの方には感謝してもしきれません。



※マスコットキャラクターのいばラッキーをいただきました。



※選手達とミーティング中
いつも何かしら笑いがおこります。



※個人競技終了直後の写真撮影

有名人になったかのようにインタビューや撮影が行われました。



※中央高等学校メンバーで撮影

メダルと賞状を持たせてくれました。
副賞のいばラッキーは私がいただきました。

7 支えがあってこそ「第3位」

今回、出場できず補欠選手としてチームを支えてきた選手が2名います。3年 鈴木 奈知と1年 樋田 明衣です。鈴木は、チーム最年長の選手で選手達からはお姉さんの存在でした。周りをよく観察して、進んで行動しチームのために何ができるかを常に考えてくれました。鈴木がいなければここまで進むことはできなかったと思います。樋田はチーム最年少メンバーで、いつも先輩達に置いて行かれないよう、全力で必死に努力していました。全てが初めての経験で何をするにも緊張していましたが、何があっても常にチャーミングな笑顔でチームを和ませてくれる存在でした。二人ともフロアに立ちたかった気持ちは正選手達も監督・スタッフ団も感じていました。「支える」ことは、表舞台で輝くために努力することより大変で苦しく、辛いことです。でも、支える人がいなければ、フロアで輝く選手もいないと同じです。茨城県のために、チームのために、そして自分自身のために、最後まで一緒に戦い抜いてくれた2名の選手の姿はとても立派で逞しい姿でした。この経験が本当に大切なことを教えてくれました。二人には本当に感謝してもしきれません。

8 最後に

私たち茨城県チームは、本当に沢山の方に支えられて「総合第3位」という素晴らしい成績をいただくことが出来ました。毎回の送り迎えやサポートを欠かさず続けてくださった保護者の皆様、練習場所と大きなバックアップをくださった中央高等学校と校長先生はじめ職員の皆様、新体操競技のために大きな協力をいただいた茨城県国体競技力向上対策本部の先生方、日立市国体運営実行委員会様、県内の新体操関係者様、多くの声援を送ってくださった茨城県大応援団、他県の皆様…。感謝してもしきれないくらいです。

この茨城国体で学んだ経験と感謝の気持ち、チームがやり遂げた感動を忘れず、次なる目標に向かって精進して参ります。

皆様、本当にありがとうございました。